digital™

Software Product Description

日本語ALL–IN–1 V3.2 for OpenVMS ソフトウェア仕様書 SPD 25.T5.04

1 概要

日本語ALL–IN–1 V3.2 for OpenVMS は，汎用のオフィス・アプリケーションを標準で備えているだけでなく，他の様々なビジネス・アプリケーションを統合するための機能を備えています。また，小規模部門から全社的な規模にわたって VT と TeamLinks が混在するユーザ・グループが，生産性を向上させるためにコミュニケーションをはかり，文書を共有し，共同作業を行うために必要な機能を提供しています。

ALL–IN–1の電子メール機能と DEC のネットワーク機能や TCP/IP を介して，ユーザは，デスクトップ・システムや部門システムあるいは全社システム上で，作成した文書をやり取りすることができます。さらに，サーバ方式に基づいた包括的なシステム管理機能によって，必要な管理スタッフを最小限に抑えることができます。

ALL–IN–1は，以下のような構成になっています。

- ALL–IN–1オフィス・アプリケーション
- TeamLinks による，Windows クライアントのための統合化されたサポート
- 多彩なライセンス・オプションおよびライセンス形態
- Message Router Gateway for OpenVMS VAX (OpenVMS メール・ユーティリティに対するメッセージ・ルータおよびゲートウェイを含む)
- 日本語 FMS (FMS およびフォーム言語トランスレータを含む)
- DEC Notes をベースとしたALL–IN–1電子会議
- 統合 CDA 変換サービス
- MAPI 1 (メール・アプリケーション・プログラミング・インターフェイス 1) クライアントとアプリケーションをALL–IN–1用デジタル MAPI 1 ドライバー V1.0 (1996 年夏発売予定) を通してサポート
- MS Mail V3.2 クライアントをマイクロソフト・メール・ドライバー - SPD:55.71(1996 年夏発売予定) を通してサポート
- cc:Mail[R]クライアントを cc:Mail 用デジタル・ドライバー V1.0 - SPD:56.15(1996 年秋発売予定) を通してサポート
- 複数のライセンス・オプションとライセンス・スタイル
- Digital UNIX[TM]または OpenVMS Alpha をベースにした MAILbus 400 とデジタル X.500 と直接コミュニケートするための X-Open XAPI と XDS インターフェイス
- ローカル Web サーバと共に、ローカル・インターネット・セキュリティ「ファイヤウォール」の外側のインターネットのどこからでもアクセスできるインターネット・サービス・プロバイダーとしての性能
- WordPerfect V5.1++ アルファ統合「out-of-the-box」（ALL–IN–1 V3.2 キットには含まれていません）

ALL–IN–1は，ユーザに対して一貫したユーザ・インタフェースを提供します。ユーザの文書はファイル・キャビネットに保管されて，オフィス・アプリケーションによってアクセスされます。

一般的なオフィス・アプリケーションは，基本システム機能の上に構築されます。この機能は，ALL–IN–1環境のもとに統合されるアプリケーションのカスタマイズや開発を行う際に利用することができます。

1997 年 7 月
AE-PR9RC-TE

2 TEAMLINKS クライアント・サポート

TeamLinks V2.5 のクライアントが利用できるサービス

ALL–IN–1は，TeamLinks V2.5 クライアントに対して，DECnet，TCP/IP，あるいは非同期リンクによる，ALL–IN–1"ワークグループ・サービスを提供します。 TeamLinks ユーザは，ALL–IN–1に精通した VT ユーザであれば，最小限のトレーニングにより，サーバを用いてファイル・キャビネット・ドロア，フォルダと文書，電子メール，配布リストへのアクセスを行うことができます。

Windows デスクトップ上で使用可能な個人の生産性向上のためのアプリケーションを選択して利用しているユーザは，どのような記述の文書タイプでもALL–IN–1ファイル・キャビネットに転送して安全に保管することができ，文書を，既存の配布リストを使って電子メールを介して送信することができます。

ALL–IN–1 V3.2は，異機種混在クライアント (Windows，VT，DOS) のユーザが，ワークグループ作業を協同でできるようにします。

TeamLinks V2.5 クライアントが利用できるサービスの概要

- ファイル・キャビネット

  文書処理

  — MS–DOSとのインポート / エクスポート

  — リファイリング

  — 文書の変換

  — 文書の変更

  — 文書の複写

  — 文書の削除

  — 文書の予約と予約解除

  — 文書の索引作成

  フォルダ処理

  — フォルダ内のリファイリング

  — フォルダ間での文書の複写

  — フォルダの削除

  — フォルダの目次情報の取得

  — ドロア内のフォルダの索引表示

  — 屑かごの整理

  ドロアの処理

  — ドロアの作成

  — ドロアの削除

  — 共有，アクセス権，格納場所に関する詳細情報の取得

  — ドロアの追加

  — ドロアの移動

  — ファイル・キャビネット内のドロアの索引機能

  メール

  — メールの作成

  — メールの変更

  — メールの削除

  — メールの表示

  — メールの返信

  — メールの送信

  — メールの転送

  — メールの属性表示

  — 作成済みメールの属性変更

  — メールのファイリング

  — メールの添付

  — メールの添付解除

  — 添付メールの索引表示

  — 受信確認要求の設定

  — 受信確認の生成

  — 受信確認生成オプションの制御機能の提供

  — 送信通知要求の設定

  — 送信優先順位の設定

  — 受信索引の表示

  — 新着メールの表示

  — 宛先確認機能の提供

  — 自動返信機能の提供

  — 自動転送機能の提供

- ディレクトリ・サービス

  — システム用配布リスト

  — 個人用配布リスト

  — グループ

  — ニックネーム

  — プロフィール名

  — 確認用の DDS ディレクトリ・サービス

  — 属性による検索のための DDS ディレクトリ・サービス

  — プライマリあるいはセカンダリ DDS サービス

- ディレクトリのユーザ管理

  — 個人用配布リスト

- グループへのアクセス
  - — グループの一覧
  - — メンバの一覧
- 索引作成
  - — 索引選択基準
  - — 複数選択

VT インタフェースによってシステム管理者が利用できる機能として，ALL–IN–1システム管理の拡張機能があります。これによってシステム管理者は，ファイル・キャビネット・サーバとALL–IN–1 AIDA サーバの両方を起動したり停止したりすることができます。

3 ALL–IN–1 V3.2 で利用できるオフィス・アプリケーション

ファイル・キャビネット管理

ALL–IN–1のファイル・キャビネットは，オフィスで一般に利用されているファイル・キャビネットとよく似ています。ドロア (引き出し) にはフォルダが格納され，フォルダには文書が格納されます。フォルダはアルファベット順に並べられ，フォルダ内の文書は新しいものを先頭に作成日順に並べられます。ただし，受信済フォルダでは最新の文書 (メール) が一番最後に並べられます。

タイトル，作成日，文書番号，作成者，キーワード，および種類といった情報は，ファイル・キャビネット内に格納されます。ファイル・キャビネットの内容を保守管理するための機能が提供されています。いちどに複数の文書を印刷したり消去したりすることができます。文書の選択はユーザが指定する基準にしたがって行うことができます。

個々にあるいはフォルダごとに文書をファイルしたり，共有化してファイルしたり，複写したりすることができます。タイトルや関連キーワードといった情報は，変えることができます。ひとつの文書がひとつのフォルダ内で共有化してファイルされている場合に，文書の本体として格納されるのはひとつだけです。

文書を削除すると，その文書は屑かごフォルダの中に入り，ユーザが屑かごフォルダを空にするまで文書はその中に残っています。

文書の一部あるいはユーザ画面の内容を一時的に保管することのできるメモ帳機能が提供されています。メモ帳の内容は，文書中に挿入，変更，印刷，メール，あるいは表示したりすることができます。

ファイル・キャビネット内の文書はすべて，その形式にかかわらず，共通の方法でアクセスされます。様々な文書形式が標準でサポートされています。さらに，すべての X.400 (1984) P2 属性は，ALL–IN–1 V3.2 ファイル・キャビネット内に格納され，DECnet OSI Phase V 上を XMR (OpenVMS VAX) ゲートウエイを経由することによって，OpenVMS VAX, OpenVMS Alpha, OSF/1 Alpha，および ULTRIX システムの MAILbus400 Message Transfer Agent と，ALL–IN–1との間で送信することができます。

ALL–IN–1は，ユーザやシステム管理者がどのような

ALL–IN–1文書でも，共有場所や各ユーザのファイル・キャビネットに格納し，取り出すことができるような機能を提供しています。複数ユーザによって同一の文書が格納される場合は，複数の複製文書が格納されます。

メール監視

MJU(メール監視ユーティリティ) 機能は，システム管理者が開封済フォルダおよび送信済フォルダ内の古いメールを各ユーザの屑かごにファイルしなおすことができるようにします。システム管理者は，開封済フォルダおよび送信済フォルダ内のメールに格納期限 (既定値では， 60 日間) と，フォルダごとに削除するメール数の限度を設定することができます。また，プロフィールおよびポリシーのオプションによって，メール数と不在期間の既定値動作を設定し変更することができます。

チェックメール

チェックメール機能は，ALL–IN–1をスタートする前にユーザのデフォルトのメール・ドロア内に未開封あるいは未送信のメールが残っていないかどうかをチェツクするために使われます。そして，残っている場合にはユーザに通知します。

共有ファイリング

他のユーザと文書を共有 (表示，変更など) するために，共有ドロアを作成します。ユーザはアクセス制御機能を使用して，どのユーザあるいはユーザ・グループに対してドロアのアクセスを許可するかを設定します。さらにそれらのユーザが実行できる操作の種類を定義することができます。並列処理制御機能を使用すれば，誰かが共有文書を変更している間，特定の処理を禁止することができます。たとえば，あるユーザが共有文書を変更しているときに他のユーザが同じ文書を変更しようとすると，文書が使用中であることと，その文書を誰が変更しているかが通知されます。

予約機能を利用すると， VT あるいは TeamLinks ユーザは，文書をダウンロードする前に，ファイル・キャビネット内の文書を予約することができます。それによってその文書に対するアクセス権をもっている他のすべてのユーザに対して，その文書が変更処理中であることを示すことができます。予約された後からその文書を変更しようとする他のユーザは，その文書が時刻記録が付いて別のユーザによって予約されていて，読み取りアクセスだけが許されることを知らされます。予約中のユーザが変更済みの文書を戻して予約を解除した場合のみ，他のユーザはその文書に対して読み取り以外のアクセスを行えるようになります。

共有ファイル機能は，ひとつのシステムの，また ALL-IN-1 Distributed Sharing Option によって複数システム間の，すべてのユーザのファイル・キャビネットをリンクします。詳しくは，ALL–IN–1 Distributed Sharing Option のソフトウェア仕様書 (SPD 36.79.xx) を参照してください。

グループ・サービス

複数のユーザを一つのグループとして定義し，そのグループを配布リストとして使うことができます。複数のグループを定義することができます。グループに対して，共有文書やドロアに対するアクセス特権を割り当てことができます。グループにメンバーを追加したりグループから削除すると，そのメンバーに関するアクセス権が自動的に割り当てられあるいは削除されます。ユーザはまた，どのグループに属しているのかを調べることもできます。 TeamLinks V2.0 ユーザは現在のところ，グループの表示とメンバーの表示だけを使うことができます。

4 電子メール

電子メールによって他のユーザとの間でメッセージを交換することができます。ユーザは，メールの作成や，変更，印刷，削除，受信，返信，転送を行うことができます。宛先と文書名およびメールのクラスを含んでいるメッセージのヘッダ部と，本文のテキストは，変更することができます。

メールを作成する時に，ユーザはメールを送ろうとする宛先を指定します。オプションとして，メールの宛先や写しの宛先として任意の複数アドレスを指定することができます。さらにユーザは，各メールについて重要度 (重要，普通) や機密性 (社外秘，親展など) とともに有効期限を指定することができます。宛先を指定する手間を省くために，ユーザは自分用の配布リストや (そのユーザだけがわかる) ニックネームを作成することができます。

受信したメールを転送したり，それに対する返信をしたりすることができます。返信は送り手に対してだけすることも，メールの受信者すべてに対してすることもできます。宛先がメールを受信したか，またそのメールを読んだかどうかの確認を要求することができます。メールの送信の優先度として，速達，普通，不急の指定をすることができます。ユーザは，メールの送信を指定した時刻まで遅延させることもできます。

メールも文書の１つですが，送信したメールや受信したメールを格納するために特別なフォルダ (受信済，開封済，作成済，送信済) が準備されています。メールを送信すると，そのメールは共有領域にコピーされ，送信者および同じノード上の受信者はすべてこのコピーを共有します。そのため，送信または受信したメールは変更できません。メールは，ファイリング (別のフォルダにコピーする) または共有化 (１つのメールを複数のフォルダに登録) できます。

すべての受信メールを自動的に別のユーザに転送させるようにすることができます。あるいは，返信用の (たとえば，「 ~ まで外出中です。 」というような) メールを作成しておいて，すべての受信メールに対して返信させるようにすることもできます。

電子メール交換での共有ファイルによって共有分散環境での適正な動作が保証されます。メールの操作はそれ以前の状況如何に関わらず常にユーザの MAIN ドロア内で行なわれます。

添付文書の索引を表示することができ，一連のオプションによって個々の添付文書を印刷したり表示したりできます。添付文書を変更可能なテキストあるいは返信や転送可能なメールとしてファイルすることもできます。

他ユーザ・アクセス設定 (SMU) オプションによって，管理者の秘書のように，他のユーザの代わりに多くのメール操作を実行することができます。メール・アクセス許可 (GMA) オプションを使用すると，ユーザは自分のメールを処理できる別のユーザを指定することができます。 SMU を利用したユーザによって送信されたメールのヘッダには，両方のユーザの名前が表示されます。

宛先の指定方法のユーザ・インタフェースが改善されています。すなわち，受信メールのヘッダの宛先リストを利用して配布リストを作成する機能，ゲートウェイを経由して他のメール・システムとの間で送受信されるメールによく見受けられる長いニックネームのサポートや長い宛先の取扱い，そしてメールの送信者をもとにニックネームを作成する機能などが改善されています。

Message Router によって， DECnet ネットワーク上の異なるシステムのALL–IN–1ユーザ間でメーセージ交換ができます。また， Message Router VMSmail Gateway により， VMS の Mail ユーティリティを使用するユーザとの間でもメッセージ交換ができます。詳しくは， VAX Message Router のソフトウェア仕様書 (SPD 26.33.xx) を参照してください。

さらに， X.400 (1984) P2 のすべての属性をALL–IN–1 V3.2 のファイル・キャビネットに保管することができ， DECnet OSI Phase V 上を XMR ゲートウェイ (OpenVMS VAX) を介して，ALL–IN–1と MAILbus400 Message Transfer Agent for OpenVMS VAX， OpenVMS Alpha， OSF/1 Alpha，および ULTRIX システム間で送信することができます。

5 名簿管理

名簿管理サブシステムを使用して，ユーザの様々な名簿を管理することができます。電話番号や住所などの情報はシステム管理者によって管理され，ユーザはこれをいつでも参照できます。また，ほかのユーザの電話番号帳を参照することもできます。

個人用電話番号帳，ニックネーム，配布リストなどを登録したり検索することもできます。

Message Router の DDS (Distributed Directory Service) 機能を利用することにより，メール・ディレクトリと呼ばれる名簿を利用することもできます。メール・ディレクトリには社員番号，名前，所属，役職，会社の電話番号，自宅の電話番号など様々な情報が登録できます。ただし，日本語によるメール・ディレクトリの利用はできません。

6 カスタマイズとアプリケーション開発

VT ユーザに対してALL–IN–1は，日本語 DEC FMS を使ったフォーム・システムをサポートします。日本語 FMS システム V2.4 の詳細については，『SPD 26.C8.00 for VAX』と『SPD 26.C8.00 for Alpha』を参照してください。

FMS および FMS フォーム言語トランスレータと結び付けて，ALL–IN–1アプリケーション開発ユーティリティによってALL–IN–1システムに変更を加えることができます。ALL–IN–1は，お客さま固有の必要性に合うように変更することができ，アプリケーション開発と統合化のための基盤を提供することができます。また，ALL–IN–1はひとつのアプリケーションあるいは機能から別のものへ (たとえば，フロー制御のような) 制御を渡すための一般的な機能とメカニズムに対するプログラミング・インタフェースを提供します。

7 カスタマイズ管理 (CM)

注意: TeamLinks V2.0 クライアントあるいは ALL-IN-1 クライアント・サービス・アクセスのライセンス・オプションではアクセスできません。

カスタマイズ管理の機能によって，システム管理者やアプリケーション・プログラマは標準のALL–IN–1システムを，コントロールされ規則に則った方法で変更することができます。この機能は，カスタマイズの作成，変更，索引，制御を行う能力と同時に各カスタマイズの変更履歴の記録を提供します。

カスタマイズ管理は，ALL–IN–1と共に提供される，カスタマイズ可能な要素タイプのためのサポートと同時にカスタマ自身のエレメントタイプのサポートを提供します。

カスタマイズされた全社システムに対するサポートはアプリケーション領域を使用することによって提供されます。さらに，ひとつのシステムから別のシステムへのカスタマイズとアプリケーションの移動もサポートされます。

状況に応じたメニュー・オプションが利用でき，特定の要素タイプに関係するメニュー・オプションだけを表示し選択することができます。

8 システム管理 (SM)

注意: TeamLinks V2.0 クライアントからはアクセスできません。

システム管理ユーティリティは，環境設定処理のスケジューリングやプリンタの管理，ネットワークや DDS プロフィールの直接的なメンテナンス，システム測定，および共有領域のクォータ管理というような，ALL–IN–1の日常的なメンテナンスを実行するために使用されます。システム管理者は，オプションとして以下のような管理項目に対する作業を行うための OpenVMS の特権をもたないシステム管理者を作ることができます。

- TeamLinks クライアントのサポートにおけるファイル・キャビネットと AIDA サーバ，および ALL- IN-1 の他のコンポーネント
- ユーザ・アカウント (の作成，削除，移動，名前変更)
- メール・システムの送信 / 受信プロセスとキューのメンテナンス
- 文書の保管
- システム用の配布リスト
- ドロア (個々のユーザのドロア作成上の制限を含む)
- メール監視
- 配布リスト印刷の禁止
- 環境設定作業のスケジューリング
- ALL–IN–1のエラーや情報レポートの監視
- ALL–IN–1シャットダウンの起動

ALL–IN–1はシステム測定機能を提供しており，システム管理者が前もって指定したイベントに対する ALL-IN-1 セッション内でのリソース使用に関するデータを収集できるようにしています。アプリケーションの開発者は，自分用に別の測定機能を定義して作成することができます。システム測定機能は，測定機能が呼ばれた回数，CPU 使用量，ダイレクト I/O，バッファド I/O，およびページ・フォルトを記録します。測定イベントは，それがシステムにインストールされていれば DECtrace によって収集することもできます。これによって収集された情報の処理とレポートのための機能が提供されます。

9 印刷

印刷機能によって，ユーザは文書の印刷出力先，部数，出力書式を指定することができます。出力は ALL-IN-1 ユーザが利用可能な任意のプリンタ，別の文書，あるいはユーザの端末に対して行うことができます。Runoff の処理を必要とするような文書は，出力に先立って自動的に DSR (Digital Standard Runoff) によって処理されます。印刷処理は，印刷フォーマッタへの割り込み処理が必要でないかぎり，バックグラウンド・ジョブとして独立に行われるため，印刷中であっても端末から他の作業を実行できます。

プリンタ・レベルのチェックによって，印刷出力先が文書の最終形式フォーマットをサポートしていることが保証されます。

印刷オプションを印刷操作中に指定することができます。システムで定義されている印刷スタイルとユーザが定義した印刷スタイルの使い勝手が改良されています。複数の印刷の実行中の作業スループットも改良されています。

配布リスト印刷の禁止

メールの表示あるいは印刷時に配布リストを出力しないようにするかどうかは，ユーザの現在の設定に従って決められます。

10 ジョブ・サービス

注意: TeamLinks クライアントからは利用できません。

ALL–IN–1は，印刷，バッチ，およびサーバ・キューのジョブに対する操作を実行する能力をユーザに提供します。索引の複数選択機能を使用すると，ユーザはジョブに関する情報を得たり，ジョブを削除したり，その属性を変更したり，現在実行中のジョブの再起動を行ったりすることができます。

キューとジョブの管理は，ALL–IN–1の中で実行することができます。管理者は特定のローカル・キューを管理するためにひとり以上のユーザをアサインして，ジョブを別のキューにいれることができます。

11 プロフィール

ALL–IN–1のユーザは各々，そのユーザに関する情報を保有したユーザ・プロフィールをもちます。

VT ユーザは，自分のユーザ・プロフィールの一部にアクセスして，名前や住所，電話番号，部署，役職などを変更することができます。さらに，就業日や就業時間，使用エディタ，メールの受信通知，および受信確認処理というようなユーザの設定情報を変更することもできます。

システム管理者は，ユーザの特権，デフォルト・ディレクトリ，フォーム・ライブラリのアクセス権というような情報を管理します。

索引

索引機能を利用すれば，索引から特定の文書を選択したり取り消すことができます。複数の文書を選択すれば，単一の文書を扱うときと同じように印刷，削除，文書の共有化など様々な処理を実行できます。索引メニューには，現在選択中の文書に対して操作可能なすべてのオプションが表示されます。索引は順方向，逆方向のどちらにもスクロールできます。

12 他言語の利用

英語セカンダリ・オプションを別途購入し，インストールすることにより，英語インタフェースが利用できます。詳細につきましては，最寄りの日本 DEC の各支店または営業所にお問い合わせください。

13 文書処理

文書処理アプリケーションを利用することにより，ユーザは文書を作成，変更，印刷，削除，表示することができます。使用できる日本語エディタには EVEJ，LEIA， JEDI， TARO の 4 種類があります。これらは日本語 EVE の提供するモード切替えを利用しています。そのほかに英語エディタとして， EDT， WPS および WPS–PLUSも使用できます。

EVEJ を使用して日本語変換を行う場合には，ローマ字入力，またはかな入力した文字列に対してコントロール・キー方式の日本語変換を行います。 LEIA および JEDI の場合にはローマ字入力，またはかな入力した文字列に対してキーパッド・キー方式の日本語変換を行います。 TARO を使用して日本語変換を行う場合には，ローマ字入力，またはかな入力した文字列に対して SPACE キーやファンクション・キーで日本語変換を行います。ただし，半角カナの入力はできません。詳しくは，『日本語 EVE ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

EVEJ の主な特徴は次のとおりです。

- 3 通りの日本語入力 (かな，ローマ字，漢字) 方法が選択できます。
- 2 通りのかな漢字変換 (逐次，候補) 方法が選択できます。
- 2 通りのコマンド・インタフェース (キーパッド，ライン) があります。
- 2 通りのテキスト入力 (重ね書き，挿入) モードが選択できます。
- カット / ペースト機能があります。
- マージン設定やセンタリングを行えます。

- キー定義によって，キーパッド編集機能を変更したり，拡張することができます。

14 半角カナ

半角カナを扱うことができます。以下の機能で，半角カナを含む文書を従来の ASCII 文書と同様に扱うことができます。

- 文書の表示
- 文書の印刷
- メール送受信
- 文書転送 (VMS への送信および受信)
- 文書保存

上記以外の半角カナを扱うことはできません。たとえば，以下においては従来通りの扱いとなります。

- 文書の作成 / 変更
- 電子会議
- CDA コンバータ
- フォームのフィールドへの表示 / 入力
- ALL–IN–1のデータ・ファイル

なお，文書中の半角カナは，以下の形式で表現されていなければなりません。

1. シングル・シフト形式

半角カナの各コードの前にシングル・シフト (SS2) を挿入します。

```
例 ：<SS2> カ  <SS2> タ  <SS2> カ  <SS2> ナ
       8Eh  B6h  8Eh  C0h  8Eh  B6h  8Eh  C5h
```

注意: <SS2>のコードは 8 ビット系 (8Eh) のみをサポートします。 7 ビット系の 2 バイト・コード (1Bh 4Eh) はサポートしません。

2. ロッキング・シフト形式

半角カナの単語の前後にロッキング・シフト (LS2R，LS3R) を挿入します。

```
例 ：<LS2R>   カ   タ   カ   ナ   <LS3R>
      1Bh 7Dh  B6h  C0h   B6h  C5h  1Bh 7Ch
```

シングル・シフト形式とロッキング・シフト形式は，

ALL–IN–1内部では区別されません。また，1 つの文書中にシングル・シフト形式とロッキング・シフト形式が混在しても，ALL–IN–1は半角カナを正しく認識します。

15 スケジュール管理 (TM)

注意: ALL–IN–1クライアント・サービス・アクセス・ライセンスでは利用できません。

ALL–IN–1 VT ユーザは，スケジュール管理アプリケーションを使用すれば，個人のイベントやタスクのカレンダ管理ができます。イベント一覧を選択すると，その日の会議やアポイントメントなどを見やすい形式で表示したり，スケジュールを画面上で簡単に変更することができます。タスク一覧を選択すると，タスク (行わなければならない作業) を表示したり簡単に変更することができます。イベントとタスクを選択すると，イベントとタスクの両方が同時に表示され，スケジュール管理のあらゆるオプションを指定できます。

ユーザがよく使用する画面やオプションだけを選択できるように，画面表示の形式とオプションの種類を独自のスタイルにカスタマイズすることも可能です。

ユーザは，イベントを設定したり，変更したり，キャンセルすることができ，また，ほかのユーザにそのイベントを通知することができます。この場合，電子メール機能を使用して自動的に会議通知が送信され，出席の確認をとることができます。会議に参加できない時間を個人的にあらかじめ設定しておくこともできます。スケジュールを他のユーザに読まれたくない場合には極秘扱いにできます。出席予定者が出席を承諾すると，その人のカレンダにも会議の日程が登録されます。会議のスケジュールを立てる前に出席予定者の空いている時間を調べることができます。これは調べたい相手のカレンダが同じノード上になくても，リアルタイムに実行できます。

タスク管理は実行しなければならない作業などのリストを管理するものです。「タスク」とは特定の日時にとらわれない作業のことで，オープン状態やクローズ状態，開始日や締め切り日などの情報を設定できます。

ALL–IN–1のスケジュール管理ユーザ・インタフェース，ミーティング通知や出席確認は， TeamLinks クライアントではサポートされません。ただし，ターミナル・エミュレーション・モードではサポートされます。

16 電子会議

注意: ALL–IN–1クライアント・サービス・アクセス・ライセンスでは利用できません。

ALL–IN–1 VT ユーザ・インタフェースは， DEC Notes を利用して，グループ・コンファレンス機能を提供しています。この機能によってユーザはALL–IN–1の使い易すさを享受しながら複数のユーザ間でコミュニケーションを行うことができます。アプリケーションの開発者は，このコンファレンス機能を利用することができる業務あるいは専門的なアプリケーションの開発において， API レベルで統合化されている DEC Notes を利用できます。 DEC Notes の詳細につ

いては，『SPD 27.06.xx (OpenVMS VAX)』と『SPD 47.19.xx(OpenVMS Alpha)』を参照してください。

17 文書の変換

すべてのライセンス・オプションには以下のようなサポートされるデータタイプが含まれます。

- DDIF - 標準的な CDA フォーマット
- DOTS - CDA 文書をパックして転送するためのフォーマット
- DTIF - テーブル (表) のための CDA フォーマット
- WK1， WK3， DIF， MACWrite， DX， WPL， PICT， WORD， WORDPERFECT， RTF
- PS - 最終形式の PostScript フォーマット

ALL–IN–1では，PostScript 以外のすべてのデータタイプを読むことができます。

ユーザは，これらの文書タイプをメールで送受信することができます。また，ファイル・キャビネットに保管したり，表示，印刷，複写，変換を行うことができます。表示されるデータのフォーマットの質は，CDA のバージョンに依存します。ALL–IN–1は，CDA の文字単位のフォーマット機能を使用することによって適正にフォーマットされた結果を与え、外部参照されるファイルの取り込み機能を提供します。

ALL–IN–1は，出力先が PostScript プリンタであれば，CDA 文書を PostScript でプリントしようとします。PostScript プリンタでない場合は，ALL–IN–1は文書を印刷するまえに ASCII テキストに変換します。

CDA 変換機能は上記のデータタイプの変換を行うために使われます。

ユーザが標準的なエディタを使って CDA 文書を変更しようとすると，通常の処理においてその文書フォーマットがエディタによってサポートされていないことを告げるメッセージが表示されます。しかしユーザは，CDA 文書を変更用に適切なフォーマットに変換して，その後適切なエディタを使用できます。変換を行った場合は，フォーマット属性が失われる可能性があります。

CDA ベース・サービスは，ALL–IN–1ファイル・キャビネットをサポートすることによって，文書が任意の CDA アプリケーションでリンクできるようにします。ユーザはまた，複合文書をファイル・キャビネットにアンパックすることもできます。

アプリケーション・プログラマは， API 機能の提供によって CDA ツールにアクセスできます。

OpenVMS 用の CDA ランタイム・サービスに関しては，『SPD 37.26.xx』を参照してください。

18 コミュニケーション (CXP+)

コミュニケーション機能を使用すれば，通信技術に関する知識のないユーザでも他のコンピュータ・システムにアクセスできます。

コミュニケーションを制御する特殊なコマンド群を含んだ文書を制御文書として用意しておけば，通信セッションを自動的に実行することができます。特に，自動ダイアル式モデムを使用しているか，ハードウェア的に直接接続されている場合には，ほかのコンピュータ・システムとの接続を完全に自動化できます。 RS232 タイプの端末をサポートしているコンピュータ・システムであれば， OpenVMS の端末ポート (RS232 タイプ) からの接続が可能です。

ファイル・キャビネット中の文書やメールを VMS (または DECmate) に転送したり，逆に， VMS ファイルをファイル・キャビネットに転送することができます。

19 卓上計算器

注意: TeamLinks クライアントでは，この機能の代わりに標準の Windows のアクセサリを利用することができます。

卓上計算器アプリケーションを使用して，計算結果を文書に取り込むことができます。卓上計算器には，単純計算モードと計算式モードがあります。計算式モードでは，三角関数や算術関数を組み合わせた数式演算ができます。単純計算モードは簡単な算術演算用です。卓上計算器の中では，キーパッドを使用して数字を入力できます。

20 システムの全般的機能 (VT ユーザについて有効な機能)

メニュー方式

各アプリケーションへのアクセス方法は階層構造のメニュー形式になっています。使い慣れたユーザは，途中のメニュー表示をとばしてアクセスすることができます。

現在行っている作業を中断し，新しく受信したメールを読んだり，現在の時刻を表示したり，スケジュール管理，名簿管理，卓上計算器，メモ用紙などのアプリケーションにアクセスしたりできます。

OpenVMS のコマンドに精通しているユーザは，システム管理者によって許可されていれば，ALL–IN–1を終わらせずにコマンドに直接アクセスすることができます。

ユーザ・インタフェースには 2 種類あります。それらは，画面表示を効果的に行うスクリーン・モードと電話回線を利用した場合に有用なハードコピー・モードです。

ヘルプ

Help キーを押すことによっていつでもヘルプ情報を得ることができます。ヘルプ機能によって，ユーザはドキュメントを参照しなくてもALL–IN–1のある機能について基本的な情報を得ることができます。

TeamLinks ユーザの場合は， F1 キーによって Windows 環境でのヘルプを得ることができます。

オンライン・トレーニング

注意: VT ユーザのみ利用可能です。

VT ユーザは，オンライン・トレーニング機能を使用して，システムの使い方を学習することができます。トレーニングは，一連の対話式画面によって，ALL–IN–1のさまざまな機能がどのように動作するのかをユーザに説明します。

ユーザ定義処理

注意: VT ユーザのみ利用可能です。

ユーザ定義処理 (UDP) は，キー入力を自動的に記録することによって，頻繁に繰り返されるキー入力シーケンスを自動化するものです。 UDP の数や， UDP に保存することができるキー入力数に制限はありません。ひとつの UDP から別の UDP を呼ぶこともできます。

文書の扱い

文書の予約機能により，各ユーザは文書を変更するときにその文書を独占的に使用できるようになります。

文書ハンドリングは，変更可能形式の文書と最終形式の文書を区別します。フォーマット処理と印刷処理も区別されます。文書のフォーマット処理は印刷とは別に実行できます。

バックグラウンド・フォーマッタは CDA フォーマット機能を備えており，フォアグラウンドとバックグラウンドの両方で CDA フォーマット機能を処理できます。

プリンタ・レベル・チェック機能により，プリンタが文書の最終形式をサポートするかどうかを確認できます。プリンタで最終形式がサポートされない場合には，可能であれば文書はサポートされるフォーマットに変換されます。また，別のプリンタで印刷するようにユーザに指示する場合もあります。

21 ドキュメント

日本語ALL–IN–1のキットでは，以下のドキュメントが標準で提供されます。

英語版ALL–IN–1ドキュメント・セット:

- Cover Letter
- System Management Documentation
  - — Release Notes (on-line)
  - — Installation Guide
  - — Installation: Language and Market Supplement
  - — Overview and Planning Guide
  - — Management Guide
  - — Mail Management Guide
  - — Managing Servers
  - — CDA Converter Library Documentation
  - — Message Router Documentation
  - — OpenVMSmail Gateway Documentation
  - — VAX FMS and DEC FMS Installation Guide
  - — DEC Notes Installation Guide
- Application Development Reference Guides
  - — Application Programming: Getting Started
  - — Application Programming: Guide
  - — Application Programming: Using Customisation Management
  - — Application Programming: Reference Volumes 1, 2
  - — Application Programming: FMS Reference
  - — Application Programming: User Interface Standards
  - — Application Programming: Mini Reference
  - — Application Programming: Index
- General User Documentation
  - — ALL–IN–1 User’s Handbook
  - — ALL–IN–1 WPS–PLUS Mini Reference
- Super User Documentation
  - — ALL–IN–1 User’s Reference
  - — ALL–IN–1 WPS–PLUS User’s Reference
  - — ALL–IN–1 Administration Guide
  - — ALL–IN–1 WPS–PLUS Printer Characteristics
  - — ALL–IN–1 WPS–PLUS Version 4.2 Supplement
  - — Keyboard Diagrams

日本語ALL–IN–1 V3.2 ドキュメント・セット:

— ユーザーズ・ガイド

— アドミニストレーション・ガイド

— インストレーション・ガイド

— マネージメント・ガイド

— メール・マネージメント・ガイド

— 概要及び構築計画ガイド

— 管理サーバー

— リリース・ノート

— をご使用のお客様へ

— ユーザ用変更点バージョン 3.2（ オンライン ）

— 日本語ALL–IN–1ユーザ・ハンドブック

これらのドキュメント・セットは別途注文することもできます。

22 ソース・コード情報

日本語ALL–IN–1のキットの中には，いくつかのソース・コードが含まれます。これらを変更して，ALL–IN–1をカスタマイズすることも可能です。ただし，ソース・コードの変更に関しては，その使用および信頼性に関して，日本 DEC は一切責任を負いません。

23 インストレーション

日本語ALL–IN–1のインストレーション作業には特別な知識が必要です。当社のインストレーション・サービスをご利用になることをお勧めします。

24 必要なハードウェア

サポートされるプロセッサ

Alpha: OpenVMS を日本語ALL–IN–1でサポートするすべてのアルファ・プロセッサとワークステーション

注意: 推奨される最少メモリ・サイズは、 64MB です。

VAX: すべての VAX プロセッサ。ただし次にあげるものをサポートしているものは除きます。

MicroVAX:MicroVAX I
VAXstation:VAXstation I, VAXstation 8000
VAX:VAX–11/725,VAX–11/730,VAX–11/750,VAX–11/782

注意: VAX システムをサポートするために推奨される最少メモリ・サイズは、 32MB です。

プロセッサの制限事項

Ethernet および Mixed Interconnect VAXcluster において，ディスクレス・サテライト・システムはサポートしません。

日本語ALL–IN–1を実行するために必要なメモリ，プロセッサ，およびディスク台数は，同時にシステムを使用するユーザ数に応じて異なります。詳しくは最寄りの日本 DEC の各支店または営業所にお問い合わせください。

その他のサポートされるハードウェア

TeamLinks クライアント

80386 マイクロプロセッサ以上を使用している Windows ベースの IBM あるいは IBM 完全互換の PC。最低でも 25 MHz のプロセッサ・クロックが推奨されます。

- 少なくとも 5.0 MB 以上のシステム・メモリが TeamLinks V2.5 のために割当てられなければなりません。

  注意: このメモリは，システム・ソフトウェアや実行される他のアプリケーションによって使われるメモリとは別に必要です。
- 1 台の CD ROM ドライブ
- 少なくとも 18 MB 以上の空き容量のあるハードディスク

サポートする端末

- VT284
- VT286
- VT382

なお，WPS–PLUSを使用する場合には，拡張ビデオ・オプション (AVO) を持つ端末が必要です。

サポートするプリンタ

- LA86
- LA88
- LA90
- LA280
- LA380
- LN03S-JA
- DEClaser 2300 シリーズ
  — 基本モデル
  — グラフィック・モデル
  — PCSA モデル (DEC モードのみサポート)
- LN82R
- 日本語プリントサーバ・シリーズ
  — 日本語プリントサーバ 20

— 日本語ターボ・プリントサーバ 20

— 日本語プリントサーバ 40

— 日本語プリントサーバ 40 plus

— 日本語プリントサーバ　17

25　必要なディスク容量

必要なディスク容量については、日本語ALL–IN–1 V3.2 インストレーション・ガイドを参照してください。

26　クラスタ環境

いずれかの適正なライセンスのある VMScluster 構成にインストールされる場合，このレイヤード製品は，該当する SPD(下記を参照してください) の範囲内で完全にサポートされます。これには，Alpha のみが含まれます。

* VMScluster 構成については，『VMScluster Software V1.5 for OpenVMS Alpha (SPD 42.18.xx)』に詳しく記述されています。ここでは，OpenVMS Alpha システムおよび混合アーキテクチャ・クラスタについての VMScluster 構成について記述しています。

注意: クラスタ内でALL–IN–1を実行するすべてのノードは，OA$論理名定義の単一の共通セットを参照しなければなりません。

27　必要なソフトウェア

OpenVMS VAX	OpenVMS Alpha
日本語 OpenVMS VAX V6.1 以降	日本語 OpenVMS AlphaV6.1 以降
DECNet-VAX end-node V5.5	DECNet V1.5 for OpenVMS Alpha
日本語VAX FMS V2.4(ALL–IN–1キットに含まれる)	日本語 DEC FMS V2.4 for OpenVMS Alpha(ALL–IN–1キットに含まれる)

28　OPENVMS テーラリング

日本語 OpenVMS オペレーティング・システム V6.1 以降の場合，このレイヤード製品のすべての機能を利用するためには，以下の日本語 OpenVMS クラスが必要です。

- VMS Required Saveset
- Network Support
- Programming Support
- System Programming Support
- Secure User’s Environment
- Utilities
- BLISS Required Files

OpenVMS クラスとテーラリングについては，OpenVMS オペレーティング・システムのソフトウェア仕様書 (SPD 25.01) を参照してください。

29　オプション・ソフトウェア

- TeamLinks for Windows V2.5 (SPD 46.33.**) または TeamLinks Mail for Windows V2.5 (SPD 62.82.**)
- PATHWORKS for DOS V5.0 以降
- PATHWORKS for OpenVMS VAX V5.0 以降
- PATWORKS V5.0 以降 for OpenVMS Alpha
- VAX Message Router V3.3a (ALL–IN–1キットに含まれています。 VAX 上で利用します。)
- VAX Message Router OpenVMS Gateway V3.3 (ALL–IN–1キットに含まれています。 VAX 上で利用します。)
- DECnet OSI for OpenVMS V6.1 以降 (注意: 長いノード名はサポートされません)
- DEC TCP/IP Services for OpenVMS V3.1 以降
- WinSockets API V1.0,V1.1 をサポートする製品および PATHWORKS あるいは DEC TCP/IP Services for OpenVMS
- DEC Notes V2.5 for OpenVMS(ALL–IN–1キットに含まれています。)
- ALL–IN–1 Distributed Sharing Option V1.0 for OpenVMS (リモート分散共有に必要です)
- MAILbus 400 Message Transfer Agent for OpenVMS V1.4A, V2.0 (SPD:54.67)
- デジタル X.500 Directory Service Agent for OpenVMS V3.0 (SPD:40.77)
- MAILbus 400 API V2.0 (SPD:54.69)
- XMR MAILbus 400 to Message Router gateway V1.2 (VAX のみ) (SPD:53.65)
- MAILbus 400 smtp gateway V2.1 for UNIX (SPD:46.91)
- DEC VTX for OpenVMS V6.2

ALL–IN–1 V3.2 でのレイヤード製品の利用可能性と組み合せに関する個別情報については，弊社営業にお問い合せください。

30　バージョンアップ時の考慮事項

本製品の将来のバージョンでは，必要なハードウェアおよびソフトウェアの最小構成が変更されることがあります。

31 注文情報

最寄りの日本 DEC の各支店/営業所にお問い合わせください。

32 ソフトウェア・ライセンス

本ソフトウェアは，日本 DEC 標準販売約款中のライセンス規定に基づいて提供されます。日本 DEC のライセンス条件とその方針についての詳細は，最寄りの日本 DEC の各支店/営業所にお問い合わせください。

33 運用上の制限事項

ALL–IN–1への TeamLinks 接続は，複数のALL–IN–1ユーザがひとつの OpenVMS アカウントを共用しているアカウントである場合には実行できません。 TemLinks ユーザは，それぞれ個別のALL–IN–1アカウントをもたなければなりません。

- ALL–IN–1の各ユーザは， OpenVMS および ALL- IN-1 の登録ユーザでなければなりません。 ALL-IN- 1 クライアント・サービス・アクセス・パーソナル・ユース・ライセンスを購入後，新規の TeamLinks ユーザはALL–IN–1のシステム管理者によってユーザとして登録されなければなりません。個別に Team-Links ユーザとしての登録が行なわれていない場合，そのユーザはALL–IN–1 V3.2 にアクセスすることはできません。
- 公開されている API によってALL–IN–1にアクセスする非 TeamLinks クライアントも， OpenVMS およびALL–IN–1の登録ユーザでなければなりません。

34 ライセンス管理機能

本ソフトウェアは OpenVMS ライセンス管理機能 (LMF V1.1) をサポートしています。ライセンスは CPU の性能に応じたキャパシティ・ライセンスまたは必要ユーザ数に応じて購入できるパーソナル・ユース・ライセンスを準備しています。

ライセンス管理機能についての詳細は， OpenVMS オペレーティング・システムのソフトウェア仕様書 (SPD 25.01.XX) または VMS オペレーティング・システムのドキュメント・セット中の『License Management Utility Manual』を参照してください。

日本 DEC のライセンス契約の条項についての詳細は，最寄りの日本 DEC の各支店または営業所にお問い合わせください。

35 ソフトウェア製品サービス

日本 DEC では，様々なサービスを提供しております。詳細につきましては最寄りの日本 DEC の各支店または営業所にお問い合わせください。

36 保証

本ソフトウェアには，日本 DEC 所定のソフトウェア保証基準に定められた保証が提供されます。

® Microsoft，MS–DOSは，米国 Microsoft Corporation 社の登録商標です。

® OSF/1 は， Open Software Foundation,Inc. の登録商標です。

® PostScript は，米国 Adobe Systems 社の登録商標です。

™ Windows は，米国 Microsoft Corporation 社の商標です。